

《担当者名》講師 / 櫻田 渉
教授 / 平野 剛

講師 / 中山 章

講師 / 早坂 敬明

【概要】

近年、医療の高度化、多様化に伴い医療における薬剤師の役割が大きく変化し、薬剤師業務も多様化してきている。しかし、調剤業務（正確な調剤）が薬剤師業務の根幹であることは何ら変わらない。本講義では、処方箋に基づいた調剤業務を安全で適切に遂行出来るようになるために、基本的な薬学的管理、調剤業務の基礎を修得する。

【学修目標】

医療チームの一員として調剤を正確に実施できるようになるために、処方箋授受から服薬指導までの流れに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	薬剤師の業務と役割（１） 薬剤師の業務と役割（２） 教科書：上（１） p9～16, 41～44, 102 教科書：上（２） p2～8, 26～40	● 医療の担い手として、常に省察し、自らを高める努力を惜まず、利他的に公共の利益に資する行動できる。 ● 医療、保健、介護、福祉に関わる他の専門職の職能について理解し、多職種連携における薬剤師の役割や専門性について説明できる。 ● 健康に影響を及ぼす環境や生活習慣について理解し、地域の衛生環境の改善、疾病予防、健康増進における薬剤師の役割について説明できる。 ● 薬剤師が薬学的知見を活かす場が多岐にわたることを理解し、薬剤師の薬学的知見の発揮によって得られる成果（アウトカム）を可視化する重要性を認識できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-1 2）、B-2-2 1）、B-3-1 1）、B-5-3 1）	早坂 敬明
2	医薬品の定義と管理 教科書：上 p111～135	● 医薬品の種類・分類について説明できる。 ● 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-4-2 1）、B-4-4 2）、 F-3-1 1） 特別な注意を要する医薬品（劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬、覚醒剤原料、ハイリスク薬、抗悪性腫瘍薬、特定生物由来製品、放射性医薬品等）の管理と取り扱い	中山 章
3	処方箋の記載事項 教科書：下 p2～4, 12～15, 28～29, 39～46, 53～61	● 適正な処方箋の記載事項・内容を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-6-1 1） （１）処方箋に記載すべき事項・内容と調剤に関する基本的事項	櫻田 渉
4	計数調剤（内用剤、外用剤） 教科書：下 p14～15, 53～71, 110～112, p119～122	● 適正な処方箋の記載事項・内容を説明できる ● 調剤の流れに従って、患者背景ならびに処方された散剤、水剤、注射剤など医薬品の製剤学的特性に応じた基本的な調剤、調剤監査を行い、服薬指導すべき内容を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-6-1 1）、3） （3）内用剤の調剤（計数調剤、計量調剤）と服薬指導 （5）外用剤の調剤と服薬指導	櫻田 渉

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	計量調剤（散剤） 教科書：下 p72～85	●適正な処方箋の記載事項・内容を説明できる ●調剤の流れに従って、患者背景ならびに処方された散剤、水剤、注射剤など医薬品の製剤学的特性に応じた基本的な調剤、調剤監査を行い、服薬指導すべき内容を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-6-1 1),3) (3)内用剤の調剤(計数調剤、計量調剤)と服薬指導	櫻田 渉
6	計量調剤（内用液剤・外用薬） 教科書：下 p86～100,p113～119	●適正な処方箋の記載事項・内容を説明できる ●調剤の流れに従って、患者背景ならびに処方された散剤、水剤、注射剤など医薬品の製剤学的特性に応じた基本的な調剤、調剤監査を行い、服薬指導すべき内容を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-6-1 1),3) (3)内用剤の調剤(計数調剤、計量調剤)と服薬指導 (5)外用剤の調剤と服薬指導	櫻田 渉
7	注射剤調剤 教科書：下 p139～204	●適正な処方箋の記載事項・内容を説明できる ●調剤の流れに従って、患者背景ならびに処方された散剤、水剤、注射剤など医薬品の製剤学的特性に応じた基本的な調剤、調剤監査を行い、服薬指導すべき内容を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-6-1 1),3) (4)注射剤と輸液の調剤と服薬指導 (6)無菌調製、抗悪性腫瘍(がん)薬調製、調剤薬監査	平野 剛
8	処方箋鑑査・調剤薬鑑査・疑義照会 教科書：下 p38～52,p123～135	●適正な処方箋の記載事項・内容を説明できる ●患者背景に基づいて、処方された医薬品(処方薬)の投与量、投与方法、投与剤形の妥当性を評価し、疑義照会の必要性を説明できる。 ●調剤の流れに従って、患者背景ならびに処方された散剤、水剤、注射剤など医薬品の製剤学的特性に応じた基本的な調剤、調剤監査を行い、服薬指導すべき内容を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-6-1 1)～3) (2)適正な投与量、投与方法、投与剤形の評価と疑義照会 (6)無菌調製、抗悪性腫瘍(がん)薬調製、調剤薬監査	櫻田 渉

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（90％）、授業への取り組み態度（10％）により評価する。

フィードバックは個別に対応する。

【教科書】

「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 薬剤師業務の基本 上 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社

「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 調剤業務の基本 下 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社

【学修の準備】

当日の授業範囲を予習し、あらかじめ疑問点等を把握しておくこと。（50分）

教科書、配布プリント、授業ノートを活用して、復習して理解を高めること。（50分）

- ・3～5回の授業では、予習として講義範囲について教科書を読み、該当するSB0のweb問題を解くこと（40分）。
- ・3～5回の授業では、復習として正解しなかったweb問題について、教科書、配布プリント等を利用してまとめておくこと（60分）。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

- B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム 2)
- B-2-2 多職種連携 1)
- B-3-1 地域の保健・医療 1)
- B-5-3 アウトカムの可視化 1)
- B-4-2 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保と薬害の防止 1)
- B-4-4 特別な管理を要する医薬品等 2)
- D-6-1 処方箋に基づいた調剤 1)～3)
- F-3-1 医薬品の供給と管理 1)

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

平野 剛（薬剤師）、中山 章（薬剤師）、櫻田 渉（薬剤師）、早坂 敬明（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

教科担当の4名は、病院・薬局の実務経験者である。臨床における病院業務、薬局業務の経験を活かし、具体的な実務薬学について講義をする。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している